

第 28 回 JPS 優秀論文賞受賞論文プロフィール

第 28 回 JPS 優秀論文賞として 2020 年～2022 年に Journal of Pharmacological Sciences に掲載された原著の中から厳正なる審査の結果、以下の論文が選考されました。賞状及び副賞が授与されます。

受賞論文

Estrogen decline is a risk factor for paclitaxel-induced peripheral neuropathy: Clinical evidence supported by a preclinical study

Tomoyoshi Miyamoto ^{a b 1}, Shiori Hiramoto ^{a 1}, Ayano Kanto ^a, Maho Tsubota ^a, Masanori Fujitani ^b, Hiroki Fukuyama ^b, Shigekatsu Hatanaka ^c, Fumiko Sekiguchi ^a, Yuichi Koizumi ^b, Atsumi Kawabata ^a

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 146, Issue 1, May 2021, Pages 49-57.

Doi: 10.1016/j.jphs.2021.03.001

筆頭著者

Tomoyoshi Miyamoto^{1,2} (¹Laboratory of Pharmacology & Pathophysiology, Faculty of Pharmacy, Kindai University, Higashi-Osaka, Japan, ²Department of Pharmacy, Seichokai Fuchu Hospital, Izumi, Japan)

受賞理由

乳がんの女性患者の方が他のがん患者より、また内分泌療法を施した患者の方がパクリタキセルによる末梢神経障害を生じやすいという臨床研究の解析結果をマウスの卵巣摘出モデルで再現し、エストロゲンの減少が原因となることを示した基礎-臨床融合型研究であり、その姿勢は今後の薬理学研究の方向性の 1 つを示す模範的な研究である。また被引用の推移も良好である。